

シンポジウム記録

特別支援教育の推進 ―各学校種等における現状と課題から―

シンポジスト

田中 誠 氏 (全国連合小学校長会特別支援教育委員会 委員長 八王子市立愛宕小学校 校長)

瀧島 順一 氏 (全国特別支援学級設置学校長協会 会長 練馬区立大泉中学校 校長)

岩井 雄一 氏 (全国特別支援学校長会 会長 東京都立青鳥特別支援学校 校長)

司会

西牧 謙吾 (国立特別支援教育総合研究所)

はじめに3名のシンポジストの紹介がなされた後、司会の西牧より、特別支援教育の推進の工夫に関し、教育現場の取り組みの現状と課題について、通常の小学校、特別支援学級設置学校、特別支援学校の各々の校長の立場から報告、提言をいただき考え合うという本シンポジウムの趣旨説明がなされ、各氏からの話題提供が行われた。

田中氏は、小学校の校長の立場から「小学校における特別支援教育推進の現状と課題について」と題して、通常の学級に在籍している発達障害のある児童への教育的支援の現状について、平成21年度全国連合小学校長会の調査結果から、通常の学級における発達障害のある児童の在籍率、指導上の困難点、学級担任が行っている配慮の内容等を報告し、これからの教育に「生きる力」の一層の強調とその理念の共有が求められることに触れ、学習指導要領改訂のポイントを踏まえた教育課程編成についての視点を授業の様子を紹介しながら述べた。また、特別支援教育を組織的に推進するためのポイントにも言及した(要項 p10-11 参照)。

瀧島氏は、特別支援学級設置学校長(中学)の立場から「特別支援教育の推進―特別支援学級における現状と課題―」と題して、特別支援学級に求められる教育を踏まえた上で、特別支援教育の充実に向けていかに特別支援学級の教育課程編成を考えるかについて、その主要な観点に言及した。また、教育課程編成にあたり教師の専門性が大切になることに触れ、必要となる専門性の中身についても論じた。さらに、幼・小・中・高の連携の必要性を述べるとともに、特別支援教育の充実に向けて様々な取り組みを推進していくためには、学校長のリーダーシップが不可欠であるとした(要項 p12-13 参照)。

岩井氏は、特別支援学校長の立場から「特別支援学校学習指導要領の改訂と特別支援学校の取組と課題」と題して、特別支援学校学習指導要領の改訂のポイントと、実際に教育課程をどのように考えていくのかについて述べた。まず自立活動の目標について触れ、自閉症に対応した教育内容の工夫例も紹介した。また、個別の教育支援計画の作成と活用、重複障害者に関する教育課程の取り扱い等に触れ、東京都における自閉症の児童生徒の教育にかかる教育課程の事例も示した。さらに交流及び共同学習について、教師の専門性の向上や教育条件の整備についても言及した(要項 p14-15 参照)。

<質疑・討議>

まずはじめに司会の西牧がフロアに質問、意見を求めたところ、特別支援学級の担当者として発想力の重要性の指摘とともに、特別支援学級担当者の資質・専門性に関する地域の現状、今後の研修、養成、採用等に関する課題と期待等についての発言があった。

これらの発言にも関連して、司会の西牧より3名のシンポジストに対して、各々校長としてのリーダーシップを発揮して学校運営をされているが、教員の専門性にも配慮し、学校を変えていくためにどんなことを考え、どんな工夫をされているかについて質問がなされた。これに対して、田中氏は、子どもたちの話がどれだけできるかという点を強調し、瀧島氏は、校長が教員一人一人と話をすることが大切であり、校長と教員が交わって話をすること、意見交換することが専門性を高めるとの考えを述べた。岩井氏は、研究授業も含め、校内での研修の重要性に触れるとともに、教員養成、採用、異動についての課題にも言及した。

最後に西牧が、セミナー2日目の講演及び対談、各分科会で教育課程について考えを深め合う中で、包括的な議論に発展することへの期待を述べてシンポジウムを閉じた。